

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090500105		
法人名	特定非営利活動法人 あおぞら		
事業所名	グループホーム 大門		
所在地	飯田市大門町22番地		
自己評価作成日	平成26年7月14日	評価結果市町村受理日	平成27年1月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2090500105-00&PrefCd=20&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マシネットワーク 福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成26年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して5年目を迎えています。この4年間の実績と経験を踏まえ、初心を忘れることなく、ご利用者の自発性を活かした自由で住みよい生活を求めていきます。その一環として、ご利用者さんの声を聞き、互いに意見を交換する「座談会」を継続してその時々課題や希望を皆で話し合っています。話の焦点がずれることも多いのですが、昔の思い出や体験の中から出てくる意見や希望も多く、それらの声を出る限り生活の中に取り入れていくようにしております。
3年越しに検討してきました「看取り」の問題は、一定の学習の区切りをつけ、その学習を基本にして、担当職員を中心にしてお家族・ご利用者を交えた懇談会を実施しました。お家族からは率直な意見や悩みなどがお聞きできました。そうした有益な声を元にして、「人生の最終章」に向けた課題を家族会等を通じて、相互理解を深めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

街の中にある当事業所は、天井は高く開放感が感じられ、ホールや各居室からは、利用者と共に育てている季節の野菜や花が咲き、四季の移り変わりが感じられる家庭菜園がある。利用者が地域で住み続ける事に向けて、理事長始め職員は、様々な工夫をされている。その一つとして利用者中心の「座談会」である。回を重ねるごとに思い出や昔の体験の中から自分の思いや意向も出され、職員は利用者一人ひとりの意向や思いの把握に努める事ができるよう、学習を重ねている。理事長は、利用者が今まで培ってきた自主性と社会性が失われる事がないよう「座談会」の声を生活の中に取り入れた自立に向けた支援に努めている。「和を基本にすえて、たくさんの輪を広めて、それぞれの絆を大切に…」の理念の具現化に向けて、職員は笑顔で利用者本位の支援になるよう心がけている姿勢を伺う事ができる。又看取りについても関係者と意見を交わしながら支援に取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念について、職員会、ケア会時に、管理者、職員の全員で、学び、考え、創造しました。</p> <p>地域の中での生活を大切に、「和」「輪」「絆」を基本にして実践している。</p>	<p>「和・輪・絆」の理念を活用しつつ、地域社会の継続と地域との関係性を重視した理念に沿った支援がなされているか、月2回の職員会にて振り返りの機会を持ち、管理者と職員は日々話し合いを行い、実践に繋げている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会、組合に加入、地域清掃、地域の方々の認知症、介護保険、その他全般の相談を受けている。ふれあい広場に参加し展示、華道展券を頂き参加交流、近くの保育園との交流会を行っている。</p>	<p>自治会に加入し、回覧板に事業所発行のお便りが綴られ回覧されている。地域のボランティアの訪問があったり、触れ合い広場に参加したりと普段の生活の中で地域住民との交流に取り組んでいる。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2090500105-00&PrefCd=20&VersionCd=022</p>	<p>ヘルパー研修・小・中・短大学生の職場実習、施設見学等の受入れをしている。</p> <p>自治会・独居高齢者等・地域の方々を中心に招待した交流会を開催した。防災訓練・療育音楽を一緒に行い、認知症の理解を共有している。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進委員会では、現況報告・経営状況等を中心に開催している。地域交流会への意見を活かし、地元を中心に行った。その中で、避難訓練は地域・推進委・ご利用者・職員が一緒に体験研修をした。</p>	<p>地域の役員・家族等多くの方々の参加があり、事業所の取組み等意見交換を行っている。、防災訓練等具体的な取り組み方法のアドバイスを頂き、地域の理解を得ながら事業所の運営に活かしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の事業者連絡会に出席して情報を得ている。市の介護相談員派遣事業を受託し、アドバイスをもらっている。	市の担当者に相談を持ちながら事業所の運営に活かしている。又、市の介護相談員派遣事業を活用し、利用者の意見等を聴き様々な意見交換を行い、課題解決に向け取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関ドアは、近くが交差点で交通量が激しいため、外へ出られたい方には職員が付き添い一緒に出るようにしている。職員会で身体拘束とならないケアについて話し合っている。	事業所特有のリスクも把握しながら、具体的な事例を話し合い、気づきを持つ事ができる学習を行っている。やむをえず行わなければならない場合は、最小限に留め、随時見直しを行い、抑圧感のない暮らしの支援に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会で虐待防止について学び、不適切な声掛け、介助について、どうしたら改善になるか話しあっている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用しているご利用者はいませんが、制度研修会に参加し、会議報告で共有している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用される前に、見学、体験をしていただいたり、契約の内容については、時間を掛けて説明し、質問を受けながら、理解・納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1日はご利用者との座談会を行ったり、家族との話し合いの折に意見・要望の場を設けている。ロビーに意見箱を設けてご意見がありましたらとお便り時に呼びかけをしている。介護相談員派遣制度を取り入れています。	家族会や日々ホームを訪れる家族の方々に関心する機会を積極的に作っている。月1回の利用者中心の「座談会」は、利用者から意見・要望等多く出されるようになり出された意見は、職員会等で検討しながら質の向上に繋げるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回、職員会議・ケア会議を理事長・施設長・全職員参加で行い、司会・記録も全員が交代で行い、意見や情報・気づきやアイデアを一緒に話し合い運営に反映している。	月2回の職員会は、理事長始め全職員が出席し行事の工夫を話し合ったり、会議の開催時間等話し合い、運営や管理についても職員の声を聴き、働く意欲や質の確保に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、介護員として働いており、ご利用者と過ごしている。全体職員へのアプローチ又は、個別面談をしてやりがいのある職場づくりに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画による職員の資格取得・スキルアップの勉強の支援をしている。必ず、研修会出席者は職員会議の時報告をしている。 資格取得の支援をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯下圏域グループホームの集い、県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、研修会・情報交換をしている。地域との交流会に、他事業者への参加を呼び掛け、意見交換をしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用導入前に、ご本人、ご家族と会って、生活状況や心身状況、これから如何に生活したいのか要望や不安を聞き、施設説明、見学、体験利用など納得してから利用して頂くように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を受けとめながら傾聴し、要望はどうやったら可能になるか、どのような対応が出来るか話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で、ご本人、ご家族の意向を確認し、相談を受け、施設内のサービス以外のインホームなサービス提供への提案も行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の知恵を常に教えてもらっている。共同生活する場と考え、家庭で行っていた料理・洗濯・掃除・野菜収穫や合同作品作り等を行い関係づくりを築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の健康状態の変化等は、ご家族に連絡し、支援対応の方法を共有している。体調を崩したとき、家族が介護に通って支援して下さった。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の下、若い頃からのかかりつけ病院を受診、家族や親戚・友人が、いつでも来所してもらえよう声掛けしたり、雰囲気にも配慮している。	友達が自転車に乗ってホームに訪ねて来てくれた時は、利用者の居室で茶菓子を囲んで過ごせるようサポートしている。近所の神社へ散歩に出かけ声をかけたりして、継続的な交流ができるよう支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	雰囲気作りを大切に、時々ホールの座席替えやテーブルの配置換えを行い、利用者同士が心地よく会話ができるように支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービス先(医療機関)とも連携を摂り、ご本人、ご家族共々繋がりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>月1回ご利用者中心の座談会を行い、その時の意向把握に努めている。センター方式はご利用者1人ひとり担当職員を決め、ご利用者の理解を深め、新たな気づきを大切にしている。</p>	<p>利用者中心の座談会やセンター方式を活用し、本人を支えるために細かい事柄も記録し、日々の生活の中から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご本人、ご家族、親戚、サービス事業所アセスメント等から情報収集により把握している。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>ご本人のペースに合わせた生活の中から、食事・入浴・レク活動等の様子を観察し、勤務申し送りや記録によって共有化し、職員の気づき・工夫を大切に把握に努めている。</p>		
26	(10)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ケアマネを中心に、ご本人、ご家族の要望、かかりつけ医の意見や、毎月のケア会議に於、日々の申し送りでの気づきや工夫等をモニタリングし、介護計画に反映している。</p>	<p>個別の介護計画は、利用者や家族の参加を頂き、思いや意向を伺いながら、日々の申し送りでの気づきや工夫等記録し、カンファレンス・モニタリングを定期的もしくは随時行い作成されている。</p>	<p>センター方式や、ひもときシートには、本人の思いや意向が具体的に記録されているので、これを、日々のケアや記録は介護計画を意識したものに繋げ、次への実践に活かされるよう工夫される事を期待する。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護明細には、介護計画を添付し、計画に沿った支援が出来るように努めている。1日3回の申し送りや、月2回の会議におけるケース検討を通じて情報を共有化し、見直しに活かしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>緊急時の受診や不定期の買い物など利用者のニーズに答えられるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊かに地域で暮らし続けられるように、かかりつけ医、民生委員、理美容院、保育園、各ボランティアとの協力関係を築いている。保育園で行われた花祭りの行事に出席し、楽しく交流。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に受診を続けている。緊急時やご家族が不都合又は必要時は、職員が同行している。家族に病院へ日々の経過観察表の状況提供を行っている。利用者の数名は訪問診療・往診を受けている。歯科嘱託医には歯科治療や定期歯科検診を受けている。	受診は家族対応で行っている。緊急の場合は、職員による受診の付き添いもしながら柔軟に対応している。定期の歯科の往診や嘱託医の認知症専門の学習会を行い、ホームの機能を活用した支援が行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員の配置がなく、医療連携訪問看護ステーションを利用している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、医療機関、ご家族、職員等カンファレンスにて、状況・治療説明、要望を相談し、退院の際は、リハビリ・栄養・生活・入浴方法等を学んでいる。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者・家族に看取りケアに関する意見や希望についての調査を行い、随時に個別の話し合いを設け、重度化に向けて方針を共有している。その後全体家族会を予定している。かかりつけ医・訪看・家族・運営推進委・地域等への支援関係づくりを確認しながら話し合っている。	管理者・職員は重度化や終末期に向けた学習を重ね、最大限事業所で出来る事を把握し、これを家族等に伝えている。本人や家族の不安感にも配慮しながら、医療機関への移行支援に努めるなど関係者と話し合いを持ち、チームで支援に取り組むよう努めている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救急法(最新版)の勉強会を実施、訓練を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との交流会時に、夜勤者1人の時の避難訓練をマニュアルに沿って行動し、説明し、自治会や地域の方々に感想・意見をいただき、地域との体制共有を行った。火災発生時対応マニュアル(夜間)を、いつでも見やすいところに掲示している。	街の中にある事業所である。独自の防災計画を作成している。立地条件を把握した訓練や昼間利用者が入浴中であったり、夜間の場合を想定した訓練そして、利用者個々の身体状況に応じた実践的な訓練を地域の方々と行っている。訓練後は振り返りを行い、次の訓練に活かしている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を大切にしている。話す内容によっては、声掛けにも配慮し、プライバシーを損ねないよう対応をしている。職員が言葉づかいの苦慮する場面を例題に掲げ、独自の言葉の評価基準を作成している。	理事長始め、全職員は利用者に尊厳の念を持ち接しており、職員が事業所独自の言葉評価基準を作成し、学習している。「居室の掃除をさせていただきます」を「一緒にしましょう」・「トイレに行く？」を「トイレに行きましょう」とそっと伝える等、常に具体的に確認し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、自由に思いを表せる雰囲気づくりに心掛けている。その為の信頼関係の構築を大切にしている。意志表示の難しい方は、より注意を払い、表情や反応を敏感にとらえられるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、居室で自由に過ごしたり、食事、洗濯畳み、野菜採りなど個別の希望を大切に、共同生活する仲間と一緒に暮らす楽しみづくりに繋がるように心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身支度、入浴後の着替えはご本人の意向で選んでいる。髪は地域の出張美容を利用する方が多くなってきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表はご利用者の食べたい物を聞きながら作成する。一緒に採ってきた畑の野菜も使い、昼食を中心にご利用者が一緒に調理したり、片付けをしている。自分で出来ることをする活動の場となっている。	利用者と一緒に事業所の前の畑から野菜を獲りに行き、下ごしらえを行っている。訪問した日は豚汁のごぼうを笹がきしたり、大根や人参を切ったりしていた。利用者のやってみたいという気持ちを職員はさり気なく引出しながら、和やかな食事となっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と1日の摂取量を把握している。食べれない時の補助食品、嚥下低下の対応、水分量の確保確認、糖尿病食への栄養指導に対して個々に対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を歯科嘱託医より学び、自立の方は声掛け、見守りを行い、支援が必要な方には介助で義歯を外し、清潔保持に努めている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を基本に、パット等の使用量を減らしている。声掛け、見守りにより、極力自分でできるように支援している。エコパンツ、失禁パンツ、リハパン使用を必要にあわせている。	排泄の状態等の情報を共有して、トイレでの排泄を基本支援として取り組んでいる。自立している利用者が多く、オムツの使用を減らし、失禁パンツとリハパンツを使用している利用者等、一人ひとりに合った排泄支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の毎日摂取、水分補給と食物繊維の摂れる献立の工夫をしている。身体を動かす事を大切にし、便秘等は排泄記録から対応している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望のある方や時間帯の意向を考慮して、ゆず湯や菖蒲湯や外を眺め檜風呂で個浴適温調整し楽しんでもらえるように支援している。着替えは本人に選んで頂いている。	利用者一人に職員一人が対応し、ゆっくりお話をしながら入浴している。入浴を拒む利用者には、声かけ等工夫し「ゆっくり入っておしゃべりしましょう」「そうだな」と楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムをつけられるようになるべく日中の活動を促している。寝る時間はご利用者に任せている。夜間など各居室にある温度計を見て、エアコン・24時間換気・床段により、温度調整をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の薬の処方、効能、副作用の説明をファイルに保管し、全職員に分かるように徹底している。特に状態変化については、経過観察表を家族や医師に情報提供している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、今までやってきた事、好きなことが続けられるようにしている。それを支援する為の工夫を行っている。(調理・清掃・洗濯干し物畳み・編み物・縫い物・)		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の外出、日々にウッドデッキに出て、三寒四温を感じ、庭散歩・野菜の収穫をしている。家族やボランティアの協力で公民館の生花展、ふれあい広場、外食、美容院等出掛けている。1人のその日の希望にそって戸外に出掛けることは数少ない現状です。	戸外で過ごす工夫や外出支援は、家族やボランティアの協力を得て行っている。外出困難な利用者には、ウッドデッキを利用する等工夫して気分転換など配慮された支援に努めている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族が遠方でお金を事業所が預かっている方がいますが、家族との外出時に買い物等してきている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への手紙、年賀状のやり取り、電話の授受の支援をしている。絵手紙教室を行い家族に郵送している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の窓を掃き出し式にしたり、ホールや廊下の天井を高くして気持ちの解放感に向けている。ウッドデッキから胡瓜やナスの収穫に出かけ、大輪のひまわりを数え、狭い庭を自由に外に出て楽しんでいる。	共有空間は、天井が高く開放感を感じる。そこで新聞を読む利用者、本を読む利用者。ホールからは、野菜や咲いている季節の花が眺められ、ゆっくりくつろげる場所となっている。壁の掲示物は丁寧に施しており、利用者にとって居心地の良い場となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内のテーブルで、気の合う同士で過ごしたり、ソファでテレビを見たり、横になったり、自由に移動して過ごせるように工夫声掛けしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで普段使っていたものや、家具を持って来て頂いたり、家族写真や本人の生花・作品等を飾り、これまでの生活感を少しでも維持できるように努めている。	各居室は各自掃除されている。その人の思い出の写真や大切な人の仏壇など思い思いに置かれてあり、その人らしい暮らしの場となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが付いている。風呂場は、重度化した時にも本人のできる力を活かして入浴できるように環境づくりに工夫しました。		

目標達成計画

平成26年11月

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26 10	センター方式やひもときシートの活用が、まだ活かしきれていない。	本人の課題となる思いや意向を介護計画にし、意識して日々のケアや記録をし、モニタリングに繋げる。(本人・家族・関係者交えて)	<ul style="list-style-type: none"> ・センター方式の見直し(再学び) ・ひもときシート活用(再学び) ・ケア会議の活用 ・センター方式・ひもときシートを、交替後の担当者が作成する。 ・課題が不明確(何をしたい・何に困っている) ・一人ひとりの思いを知る 	3～12ヶ月
2					
3					
4					
5		http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2090500105-00&PrefCd=20&VersionCd=022			

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。